



ゼロからでいい。 ボクたちのアクションを、 知ってほしいんだ。

必要なときに、必要なだけつくる。

そんな「無駄ゼロ」の姿勢は、ボクたちキンコースに息づくDNA。

地球のために、人のために、未来のために。

創業当時からサステナビリティに向き合ってきたボクたちが

今、やるべきことってなんだろう。

そう問い続けるなかで浮かび上がってきた、重要課題

《5つのマテリアリティ》。

ボクたちはこれまで、この課題解決のために

パートナーや協力会社、地域の方々など

たくさんの人と一緒に、力いっぱい動いてきたんだ。

だから、キンコースが向き合うサステナビリティは、

いつだって、みんなまるごと自分ごと。

想いをこめたアクションを、みんなに知ってほしいから。

ボク、キンコース・ゼロくんが、

今までの取り組みをマルっと紹介していくよ。

さあ、準備はいいかい？ こんなに動いてるぞ！キンコース。



キンコース
サステナビリティ 応援隊長
キンコース・ゼロくん

キンコーズが挑む。

マテリアリティ 5の重要課題



次のページから、
一緒に具体的な
活動を見ていこう！

1

地域共創



地域のパートナーとなり、地域社会の発展を目指す

地域貢献を通じて、地域に密着した店舗を目指します。地域社会と継続的にコミュニケーションを図り、地域の課題解決、地域の未来をともに創ります。

2

エンゲージメント



働きがい生まれる環境づくり

チームメンバー一人ひとりが誇りとやりがいを持ち、多様性を活かして、輝ける組織風土と環境を整備します。

3

サプライチェーン



パートナーと創る、安心安全な商品・サービス

安心安全な原材料・商品の調達、責任あるサービス提供を行い、持続可能なサプライチェーンを構築します。

4

環境と資源



有限な資源の有効利用と、気候変動への対応

事業活動を通して排出される廃棄物の削減、再利用、再資源化を促進し、サーキュラーエコノミーを実現します。

5

ガバナンス



責任ある企業活動の推進

あらゆるステークホルダーから信頼される企業として、健全な経営を行い、企業価値の持続的な向上を目指します。

FOR EARTH

環境への責任を果たす

サプライチェーン

環境と資源

地球環境に責任を持ち、事業活動を支える
サプライヤーと協力体制を築きながら、環境
負荷低減に向けた活動に取り組んでいます。





環境への負担を、 もっと軽く。 できることから、コツコツと。

印刷をする、アイデアをかたちにする。私たちの事業には「資源の力」が必要不可欠です。でもそれは同時に、地球に負担をかけているということ。だからこそ私たちキンコースは、責任を持って、各プロセスの環境負荷低減に向けたさまざまな取り組みに挑んでいます。

ACTION-1 印刷は、1枚から、必要な分だけ。

キンコースの核は、オンデマンドプリント。必要なときに、必要な数だけをつくることを得意としています。従来型のオフセット印刷では難しい個別対応・小ロット方式により、つくりすぎによる余剰在庫や廃棄を抑え、「もったいない」をゼロに。スピーディにつくりながら環境負荷も減らせる、人にも地球にもやさしいアクションです。



ACTION-2 環境負荷の少ない紙を、みんなのあたりまえに。

2024年以降、取り扱う販売用紙を順次、第三者認証を取得した「環境配慮用紙」に切り替えてきました。印刷より前の「紙をつくる」というプロセスから、環境負荷を低減させるアクションです。現在は、紙以外においても環境貢献価値の高い商材を取り入れられるよう、積極的な採用を試みています。 *環境配慮用紙例：FSC®認証品、エコマーク認定用紙、グリーン購入法適合用紙

PICK UP FSC®認証のスピードUPで、お客さまの「環境配慮姿勢の見える化」をサポート。

原材料となる木材が、伐採から製紙、流通、印刷・加工に至るまで、適切に管理されていることが確認された製品のみに表示が許可される、FSC®認証マーク。この表示は、環境や自然資本に配慮した資源を選んでいるという企業姿勢を社内外に伝える手段のひとつです。しかしこれまでは、使用申請や確認に時間がかかる懸念がありました。(ライセンス番号：FSC®-C189506)

そこでキンコースでは、社内体制強化を実施し、社内責任者によるFSC®認証マークの利用承認を可能にしました。これにより、小ロットかつ迅速なFSC®認証マーク付き印刷物の納品を叶えています。



ACTION-3 ECO配送で、「運ぶ」と「在庫」を徹底的に減らす。

一箇所で印刷した販促物を全国へ配送すると、輸送距離が長くなり、環境負荷も大きくなります。そこでキンコースでは、全国の店舗やパートナー企業のネットワークを活用し、各地域に印刷拠点を確保。配送先に近い拠点で印刷・発送することで、配送距離と納期の短縮を実現する「ECO配送」サービスを提供しています。

「ECO配送」は、販促物管理DXソリューション「オンデマンドMPM」のオプション機能です。いつでもどこからでも必要な数だけ発注できるため、過剰な印刷の防止や在庫負担の軽減、管理業務の効率化にもつながります。



NEXT PAGE > PLAYER'S VOICE

ACTION-4 本社移転で発生したCO2を計測。新たな基準に。

2025年8月に実施したキンコース本社移転。「環境配慮型オフィス」への転換点として、移転作業に伴うCO2排出量を詳細に計測しました。オフィス移転におけるCO2算定には明確なルールがないなか、施工・輸送・廃棄・システム工事など各工程の活動量を収集し、総排出量と1㎡あたりの排出量を算出。今回得られた知見をオンデマンド印刷・制作事業に生かすとともに、将来的には事業活動全体のCO2排出を体系的に把握・管理するための基盤づくりにつなげていきます。



PICK UP いただいたお祝いの気持ちを、お花ではなく「植樹」に。

移転祝いに贈られることの多い「祝い花」。今回の本社移転では、お祝いのお気持ちを寄せてくださるみなさまにご協力をお願いし、お花に代えて「植樹への寄付」というかたちでお祝いしていただきました。

この活動は、認定NPO法人環境リレーションズ研究所の「Present Tree」プロジェクトに賛同して実現したもの。環境保全と復興支援につながるよう、植樹を通じて石川県・奥能登の復興の森づくりに参加しました。



PLAYER'S VOICE

オンデマンドで、環境にも企業にも
やさしい世界をつくっていく。
—オンデマンドプリント×オンデマンドMPM—

キンコーズビジネスの根幹「オンデマンドプリント」と、それをさらに便利に活用するための販促物管理DXソリューション「オンデマンドMPM」。これらのサービスが、どのように環境配慮へつながっているのか。その仕組みや現状について、事業推進部のお二方にお話を伺いました。



ONDEMAND MPM
販促物管理DXソリューション



飯田英登
事業推進部
事業推進グループ
マネージャー



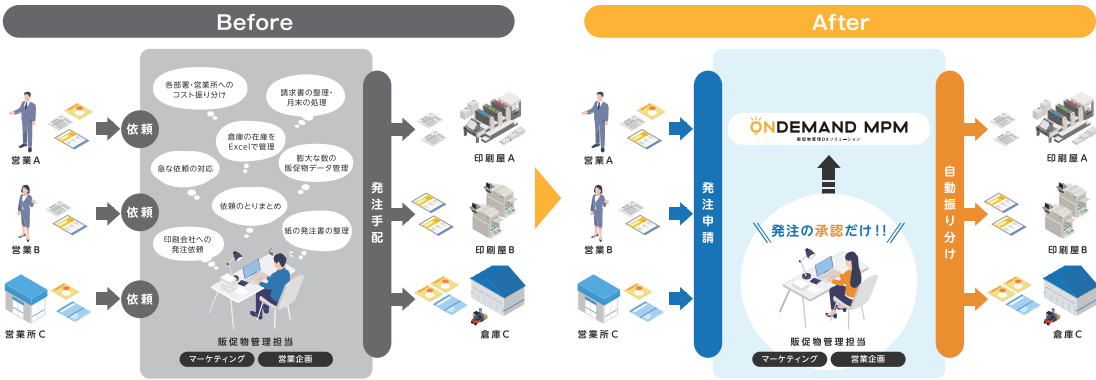
大橋武士
事業推進部 事業推進グループ
メディカルソリューション
推進チーム チームリーダー

紙ロスや電力、CO₂排出を抑えながら、「もっと便利」を叶える。

飯田：一般的な手法であるオフセット印刷は、一度で大量に印刷し1枚あたりのコストを下げられるメリットがあります。しかし印刷過程でのロスが多いことに加え、余剰在庫の廃棄が発生しやすいという課題も抱えています。その点オンデマンドプリントは、必要なときに必要な分を印刷するため無駄が出にくく、電力消費も抑えやすい。そんな環境にやさしい印刷手法なんです。

大橋：この特性を生かし、企業のお悩みを解決するために開発したのが、販促物管理DXソリューション「オンデマンドMPM」。企業が抱える販促物等のデザインや仕様、発注先、在庫状況などの情報を一元で管理・発注できるクラウドシステムです。どの部署の方でも操作可能なため、負担が集中しがちな発注担当者の大幅な業務改善につながっています。

飯田：また、全国の店舗や各地のパートナー企業と連携し、配送先に近い拠点で印刷して最短距離で届ける「ECO配送機能」も拡充。輸送時のCO₂排出を減らしながら納期も短縮できる、環境とビジネスの両面でサステナブルなサービスなんです。



販促物管理が煩雑になりがちな、メディカル業界で活躍。

大橋：オンデマンドMPMが特にお役に立てるのは、拠点や社員を多く抱え、印刷物の管理が煩雑になりやすい企業。なかでも資材が多く、印刷内容が頻繁に変わり、発注部数の見通しが立ちにくい、メディカルや金融、教育業界などですね。紙での情報管理ニーズが根強い現場というのもポイントです。

飯田：例えば製薬会社の場合、製品情報の急な変更にもともなう在庫破棄が発生しやすいんです。これでは、お金も時間も在庫場所も管理の手間も、すべてがもったいないですよね。しかも印刷物の種類は数千規模にのぼり、最新情報を管理するだけでも一苦労です。万が一古い情報で印刷してしまえば重大事故につながりかねません。こうしたケースこそ、オンデマンドMPMの出番。現在では、利便性と環境配慮の観点から、サステナビリティに力を入れる外資の製薬会社での導入実績が増えています。

進化を重ね、あらゆるニーズに応えられる存在へ。

飯田：このようなメディカル業界特有の課題に応えるべく、昨年にはMR（医薬情報担当者）が活用する規制コンテンツ管理システム「Veeva PromoMats」との連携を開始しました。これまではVeeva PromoMats上の資材データをオンデマンドMPMに手作業で入れる必要がありましたが、ワンストップで印刷・納品に辿り着けるようになりました。

大橋：このほか、物流・産業車両メーカーの販売店向けマニュアル管理や、全国の金融機関向け印刷物管理など、多種多様な業界での活用事例も増えています。さらに、印刷物だけでなく備品の社内貸し出し管理などにも応用し、あらゆるツールをまとめておけるプラットフォームとしての活用も進んでいます。

環境により良い配慮を。関わるすべての人に便利を。

大橋：目指しているのは、大手ECサイトのような便利さとスピードを兼ね備えた存在。極端に言えば、ブラジルで発注しても当日中に日本の事務所に届く世界が実現できたらいいな……そんな構想を描いています。キンコーズだけでなく、導入クライアント、エンドユーザー、印刷を担うパートナー企業、環境。この「五方良し」を、オンデマンドとプラットフォームの力で叶えていきたいです。

飯田：当社は、現場を動かし、店舗を持ち、直接コミュニケーションをとってきた企業。システム一本で勝負するIT企業ではないからこそ、しっかりと人が関われる強みを生かし、サステナブルな取り組みを加速させていきたいですね。

オンデマンドMPM (Marketing Production Management)
のサービスサイトはこちら

<https://www.kinkos.co.jp/service/on-demand-mpm/>



FOR SOCIETY

地域とつながる

地域共創

全国の店舗を起点に、自治体や学校、スポーツチーム、企業など、地域の方々との連携を深め、地域の未来をともにかたちづくる取り組みを進めています。





地域みなさんと ともに、未来を かたちづくっていく。

誰でも利用可能な実店舗を展開するキンコース。各地域のお客さまや地域みなさんとのつながりを大切にしながら、一緒に歩みを進めてきました。だからこそ私たちは、店舗を単なる「印刷物をつくる場所」ではなく、「地域の人と出会い、対話し、想いをかたちにする拠点」と捉え、ともにまちの未来をつくっています。

ACTION-1 各地域で、公式パートナーシップを締結。

各店舗では、そのエリアの自治体や団体とパートナーシップを締結しています。互いに協力し合える関係を築くことで、より地域のニーズに合った取り組みを進めています。



ACTION-2 地域イベントから、まちとつながる。

地域イベントは、さまざまな人との出会いや新しいつながりが生まれる場です。キンコースは、子どもたちの体験機会の創出や大学生との共創、地域企業・団体との協働に取り組んでいます。教育やスポーツ関連イベント、企業のファミリーデーなど、年間100件近いイベントを通じて地域とのつながりを育んでいます。

PICK UP 「ものづくりの楽しさ」と「環境への気付き」を育む体験を。

イベント内では、印刷の仕組みや環境への配慮をテーマとしたワークショップ等を実施しました。

▼ワークショップ例

- ・ペーパークラフトおうち箱&お絵描き体験・オリジナルノートづくり
- ・似顔絵ホログラムカードづくり・端材でアート作品づくり



ACTION-3 紙の再生から、地域にサステナブルな循環を。

石川県内の製紙会社や紙問屋と連携し、県内で回収した紙を県内で再生紙に生まれ変わらせるプロジェクトを発足。復興と再生の紙「おきあがみ」として、全国へ展開しています。売上の一部は能登半島地震の被災地支援の義援金として寄付。石川県エコ・リサイクル製品に認定されているほか、FSC®認証製品としての提供も可能となりました。



NEXT PAGE > PLAYER'S VOICE

ACTION-4 地域プロスポーツチームと、力を合わせて。

Jリーグの川崎フロンターレをはじめ、バスケットボールやバレーボールなどのプロスポーツチームと連携し、地域を盛り上げる企画を展開。各地域の店舗が主体となって企画運営を行い、アップサイクル体験や子どもたちの社会体験などさまざまなイベントを開催しています。



NEXT PAGE > PLAYER'S VOICE

ACTION-5 これまでの経験を生かし、店舗のない地域でも。

実はキンコースの活動範囲は、店舗のある地域だけにとどまりません。これまで、クリエイターやデザイナーとともに企画展やワークショップを開催し、表現の場を広げる取り組みを行ってきたキンコース。その実績を携え、人気イラストシリーズ「満月珈琲店」と、「日本一の星空の村」長野県阿智村のコラボレーションを実現。阿智屋神観光局と共同で、期間限定カフェ「満月珈琲 阿智店」をプロデュースしました。



PICK UP 「表現する」の先へ。 クリエイターを継続的に応援中。

これまで、クリエイターやアーティストとともに、作品展示や体験型イベント、限定グッズ展開などを実施し、表現活動の発信機会を広げてきました。場の提供にとどまらず、来場者との接点づくりや商品展開につなげることで、継続的な支援と新たなビジネス機会の創出を目指しています。



PLAYER'S VOICE

地域で循環する新しい再生紙を。

紙を起点に、まちを活性化させていく。



松本 由美子
事業推進部 サステナビリティ
支援推進グループ エキスパート
営業職や店長職を経験し、産休・育休から復帰後はキンコースの地域共創活動を牽引。店舗のある地域にとどまらず、全国へ活動の輪を広げている。本プロジェクト「おきあがみ」の仕掛け人。



中川製紙の柴田さん(左)、キンコースの松本(中央)、中島商店の松田さん(右)。

紙にも地域にも「新しい循環のかたち」を。

母としての視点や経験を生かし、これまで数多くの地域共創や教育の視点を取り入れたイベントを手掛けてきました。そのなかで意識するようになったのが、資源の循環。多くの人は、紙の再利用という仕組みは知っていても、自分ごととしては捉えられていません。そこで、食の分野で注目されていた地産地消の発想を、紙に応用してはどうだろうかと考えついたんです。地元で回収した古紙が、その地域で生まれ変わる。その過程が見えれば、分別への意識が高まり、家庭でも話題にしやすいはず。何より、印刷が生業のキンコースだからこそ、その前工程である紙づくりに目をつけるべきではないか。そんな発想から「紙の地産地消」に乗り出しました。

「地産地消」の枠を超え、全国へ羽ばたく再生紙へ。

実現には、古紙の回収から流通、製紙までを担う地元企業の協力が欠かせません。すべてを地域内で完結できる場所を探したどり着いたのが、石川県でした。東京からの新参者が協力を得るのは容易ではありませんでしたが、根気強く自治体や企業に働きかけ、中川製紙さん、中島商店さんとともに地域循環型再生紙「おきあがみ」を完成させました。ところが、県内での販売を目前に能登半島地震が発生します。今ここで販売しても、地域の力にはなれない。そう考え、地産地消の枠を超え全国から石川を応援する「再生と復興の紙」へと方針を転換しました。現在はキンコース全店で販売し、売上の一部を義援金として寄付しています。



古紙回収～再生紙化を県内で完結し、全国へ展開。

未来へつなげる。石川の発想を全国に。

今も定期的に石川に足を運び、紙の領域を超えて、企業のマッチングや地域事業を活性化する事業の支援をしています。活動を続けるうち、今では石川を訪れるたびに地元の方から声をかけてもらえるようになりました。また、「おきあがみ」をきっかけに、今度は香川県でのオリーブの剪定木を用いた紙づくりの相談が。現地の企業と手を取り合い、2026年3月に無事、完成・納品を果たしました。今後は、新しいものを生み出すだけでなく、各地域の取り組みを発掘し、活性化させる役割も担っていきたいです。日本各地に地域循環紙ができて、日本中がにぎわっていく。そんな未来を想い描いています。

地域循環型再生紙
「おきあがみ」の認定・受賞一覧

- ・石川県エコ・リサイクル製品認定
- ・サステナブル★セレクション2025
三ツ星認定
- ・ソーシャルプロダクツ・アワード2026
ソーシャルプロダクツ賞
- ・FSC®認証製品

PLAYER'S VOICE

つながり、広がり、育っていく。

店舗の歩みは地域とともに。



玉木 六花
キンコース・川崎駅前店 店長
開店当初より店長を務め、地域共創活動に積極的に取り組む。2025年には川崎フロンターレとの活動が評価され、川崎市の「地域共生推進賞」を受賞。



地域を盛り上げる「愛され店舗」を目指して。

お店をかまえる。それは「その地域の一員として責任を担うこと」だと思います。だからこそ私たちは、オープン当初から積極的に店外へ出向き、地域の方々と交流する機会をつくってきました。川崎は、行政や教育機関、企業、市民のつながりがとても強いまちです。川崎フロンターレをはじめとするプロスポーツチームも、地域活動にとっても力を入れています。私たちもこの輪に加わりたい。まちと一緒に盛り上げていきたい。地域を知るほど、そんな想いが強くなっていきました。

小学校や川崎フロンターレ、市との共創へ。

はじめに取り組んだのは、福祉施設とのアップサイクル活動です。障がいを持つ方の就労支援を主目的に、プリント端材の加工をお願いし、当店で販売を行いました。さらには、SDGs活動で知られる平間小学校との連携を目指して、校長へ直談判。デザインと販売を小学生とともに行う合同プロジェクトへと発展させていきました。この取り組みが後押しとなり、川崎フロンターレと協同で進めていた「廃アクリルを使ったキーホルダーづくり」のワークショップも実現。地域のアクリル板回収にあたり条例の壁にぶつかることもありましたが、市と調整を重ね、今では継続開催イベントに成長しています。その後、川崎市とも協力関係を築き、市制100周年のターボリン活用プロジェクトへとつながっていきました。



小学生とともに地域イベントに出店。



廃棄されるアクリル板に色を塗ってキーホルダーに。

地域と育ってきたからこそ、生まれた景色がある。

どのプロジェクトも、つながりが次のつながりを呼び、実現したものです。「一緒に何かやりませんか？」と声をかけていただく機会も増え、店内はコラボ品であふれるようになりました。また、地域の方々と顔を合わせ、交流を重ねてきたからこそ、当店スタッフの接客力は全店でNo.1の自信があります。地域とともに歩む意識がなければ、こんな素敵な成果にはつながらなかったはず。これからも、このまちとのつながりを大切に育んでいきたいですね。



ターボリン製パンをリボン型チャーム化。

FOR OUR TEAM

働きがいある職場をつくる

エンゲージメント

キンコースで働くチームメンバーが、一人ひとり自分らしく健康やかに前向きに挑戦できる職場環境づくりに努めています。





自分らしさを生かして、 一人ひとりが きらめく職場へ。

いつの時代も、サステナビリティの土台は「人」です。キンコーズのチームメンバーそれぞれが、自分らしく働き、新しいことに挑戦できる。そんなやりがいにあふれた職場づくりから、キンコーズのみならず社会全体のサステナビリティにつなげていきます。

ACTION-1 挑戦を讃え、学びを循環させる。

年1回、積極的な挑戦をしたチームメンバーに贈られる「フルスイング賞」。チームメンバーの投票により選定され、成果の大小ではなく粋を超えて挑戦したことが評価されます。このほか、トップフォーマー賞や社長賞などさまざまな賞を通じて挑戦や学びを共有し、次のチャレンジにつなげています。

PICK UP 挑戦から生まれた、 受賞プロジェクト例。

【世界を彩った賞】「川崎駅前店10周年記念イベント」
地域のお店とのコラボなどを通して、地域への感謝と還元をかねたイベントプロジェクト

【未来を彩った賞】伏見店「KAMIKI Lab」
異業種の若手と力を合わせ、間伐材と印刷技術を掛け合わせた商品づくりに挑戦共創プロジェクト



ACTION-2 成長意欲を、制度でとことん応援。

学ぶ意欲を持つチームメンバーを応援するため、資格取得支援・合格報奨金制度を設けています。大切にしているのは、自ら学び、成長し続けること。一人ひとりの挑戦を後押しし、学び合う文化を育んでいます。

対象となる資格は、簿記やIT関連、営業・販売関連などの一般資格から、専門性の高い技術系資格までさまざま。学びや成長への意欲をしっかりと支え、自分らしく活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

ACTION-3 知ってもらうことで、みなぎる力がある。

キンコーズの活動を支えるチームメンバーへ、インタビューを実施。「プロがささえるキンコーズ」と題し、プロとしてどのような想いを持って業務に取り組んでいるのかをWEB上で公開しています。

記事には、お客さまにとって身近な店頭スタッフや営業メンバーから、生産管理、システム整備、デザイナーに至るまで、部署や役割を問わずさまざまなメンバーが登場。社内外へその業務の役割や成果を伝えるだけでなく、取材プロセスを通して、自分が行う業務のやりがいや重要性を再認識する機会になっています。



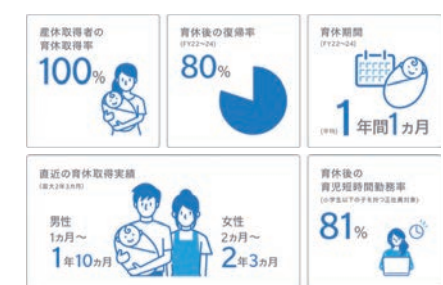
PICK UP もっと知ってほしいから。 ご家族向け体験会を開催。

チームメンバーのお子さんたちを、自社印刷工場へご招待。ノートやうちわなどの制作体験・製造見学を通して、キンコーズの仕事内容や職場の雰囲気を知ってもらう機会をつくっています。



ACTION-4 「健康」は、企業活動の基盤となる。

チームメンバーが心身ともに健康で、自分らしく働き続けられるように。キンコーズでは、生活習慣病の予防やメンタルヘルスケアなどの取り組みを通じて、健康づくりを支えています。こうした活動が評価され、複数年にわたり「健康経営優良法人」に認定されています。



FOR PARTNERS

安心をつくる

ガバナンス

個人情報保護、情報セキュリティ、品質管理、社内体制の整備を通じて、お客さまと社会から信頼される企業経営を目指しています。





任せて大丈夫。 頼って安心。

心からそう感じていただくために。
すべてのお客さまに、安心してお取引いただけるように。キン
コースは長年にわたり、セキュリティの国際規格の取得や、社内
独自の品質管理体制の構築を行ってきました。めまぐるしく変わ
る情勢のなかでも変わらぬ安心・安全をお届けできるよう、アッ
プデートを続けていきます。

ACTION-1 情報を守る。ISMS認証・プライバシーマークを取得。

印刷物をはじめとする各制作物には、機密情報や個人情報を含む、数多くの重要情報が詰まっています。こうした
情報を扱う企業として、私たちには情報を安全かつ適切に管理する責任があると考え、各認証を取得し、安全な運
用に努めています。



2014年に、情報セキュリティマネジメントシステム
(ISMS)の国際規格「ISO/IEC 27001」ならびにその日
本規格「JIS Q 27001」の認証を取得。機密情報や個人情
報を適切に保護するため、継続的な改善を前提とした情報
セキュリティ体制を構築しています。



2026年には、個人情報保護体制の第三者認証であるプ
ライバシーマーク(Pマーク)を取得。ISMSで培ってき
た情報セキュリティ体制に加え、個人情報の適切な取り
扱いに向けた取り組みをさらに強化しています。

このほか、セキュリティや品質、環境に関する
各種方針を定め、公開・運用しています。

- ・ウェブアクセシビリティ方針
- ・中核的労働要求事項に関する方針声明
- ・個人情報保護方針
- ・コピーポリシー
- ・データ保管ポリシー
- ・調達方針
- ・品質方針
- ・環境方針

FOR PARTNERS



ACTION-2 業務手順書と監査で、品質や体制を徹底管理。

2006年、キンコースは独自の標準業務手順書「SOP(Standard Operating Procedures)」を策定。商品と
しての品質を保つ作業工程やセキュリティ対策など、業務の品質を担保し均一化するための手順をまとめています。
このSOPが全国で適正に運用されているかを確認するため、内部監査室員が抜き打ちで各店舗の監査を実施。管
理体制や作業状況などを約50に及ぶ監査項目と照らし合わせ、厳しくチェックしています。またこれらの項目は、
商品やサービスの変更に応じて順次アップデート。最新の状況を反映しながら、安心・安全をお届けしています。



ACTION-3 クリアな組織であるために。社内向け相談窓口を設置。

キンコースで働くチームメンバーが、コンプライアンスに関する不安や悩みを相談できる窓口「KJ Voice」を設
置しています。さらに、働き方や暮らしに関する相談を受け付ける「ワーク&ライフ窓口」も開設。安心して働ける環境を
整え、事業を健全に推進できる、透明性の高い組織づくりを目指しています。

ACTION-4 四半期ごとの会議で、持続性の高い取り組みに。

持続性の高い経営と成長戦略を実現するため、四半期ごとにサステナビリティ推進会議を実施しています。この会
議では、マテリアリティに対する現在の取り組みの進捗共有や、中長期的に取り組む行動・目標・計画の報告、そし
て今議論すべきサステナビリティ課題についての方針検討を行っています。

また、広報・サステナビリティ推進部を設置し、経営と事業、職場の連携を強化。社内への浸透と共感を促す施策の
計画や、サステナビリティブランド戦略の実行など、多岐にわたる活動を積極的に実施しています。

今日の一枚から、 未来はもっと 良くなる。

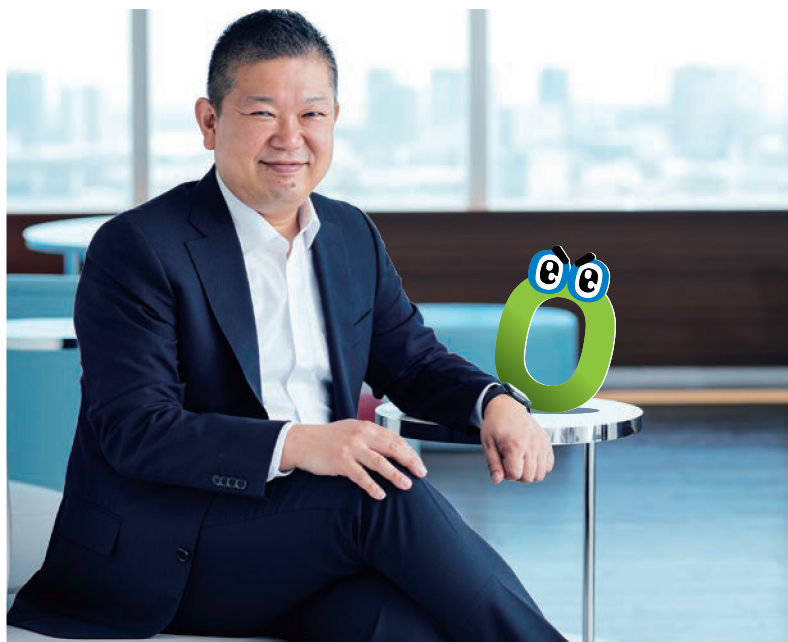
キンコースは、コピーサービスからの歩みで
オンデマンドに特化したビジネスを追求してまいりました。
一枚、一部、一つから、無駄を生まないビジネスが創業のDNAです。

そして今は、紙をデジタルにする文書電子化を推進し、多くのパートナー企業と
ともに紙に新たな命を吹き込む、紙の循環サービスに取り組んでいます。
これらも我々の最大の強みである「必要なときに、必要な分だけ」を実現する
オンデマンドソリューションの一例です。

私は、キンコースを利用すること自体にサステナビリティを感じてもらえる
そんな存在でありたいと思っています。
何故なら、オンデマンドは究極のエシカルだと思うから。

キンコースは特定した5つのマテリアリティに基づき、
オンデマンド事業の強みを活かして、今後も社会のサステナビリティに貢献する
取り組みを進めてまいります。

キンコース・ジャパン株式会社
代表取締役社長 渡辺 浩基



キンコース・ジャパン株式会社

代表取締役社長 渡辺 浩基

設立 1991年12月24日

資本金 100,000千円

株主 コニカミノルタ株式会社 100%

従業員数 721名 ※2026年7月1日現在

主な事業

プリントサービス事業

デザイン、コンテンツ制作

販促支援、展示会／イベント支援

サイン装飾制作

文書電子化、DX支援

主な沿革

1992年 日本1号店を名古屋に開店

1995年 東京1号店を虎ノ門に開店

2012年 コニカミノルタグループ入り

2014年 ISO/IEC 27001取得

2023年 FSC® CoC森林認証取得

2025年 東京都港区三田へ本社移転

2026年 ブライバシーマーク取得

発行元:キンコース・ジャパン株式会社

広報・サステナビリティ推進部

発行年月:2026年8月